

シンポジウム「生と死とその後」 ― 「生と死」研究会 第9回例会

東洋英和女学院大学・死生学研究所は（財）国際宗教研究所との共催で行っている「生と死」研究会の第9回例会をシンポジウム形式として下記の要領で開催いたします。参加ご希望の方は10月25日（月）までに死生学研究所にメール（shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp）かファックス（03-3583-4035）でお申し込みください。なお当日の受付も行います。

記

日時：2010年10月30日（土）14：40－17：50（受付開始14：10）

場所：東洋英和女学院大学大学院201教室

東京都港区六本木5-14-40（国際文化会館の向かい側）

電話03-3583-4031（大学院事務室）

参加費：1000円（本学の学生は無料）

プログラム：シンポジウム「生と死とその後」

司会：渡辺和子（東洋英和女学院大学教授・死生学研究所所長）

第1部 発題

発題（1）奥野滋子（順天堂大学医学部前任准教授）「妻の死後も対話を続けた男性」

<概要> 妻を肺癌で亡くした60歳代の食道癌の男性は、寂しさと虚しさから自殺を考え、うつ病の疑いで精神科を受診しました。それによって不眠は解消されても喪失感は強まりました。ある日、妻に会いたいという一心から、首をつろうとしましたが、そのとき妻の声を聞いたような気がして思いとどまりました。それ以来彼は、様々な日常の場面で妻の存在を感じて対話をするようになり、「私はそばにいる」という妻のメッセージに支えられて残された生を精いっぱい生きようと決心しました。

<プロフィール> 金沢医科大学医学部卒業。同大学院医学研究科（形成再建外科学）中退、順天堂大学麻酔科学講座講師、総合病院衣笠病院ホスピス医長、神奈川県立がんセンター緩和医療科医長・部長を歴任。2010年4月より現職。同付属順天堂医院がん治療センター副センター長、緩和ケアセンター室長、大学院医学研究科臨床腫瘍学准教授を兼任。医学博士。ケアマネージャー。2008年に本学大学院人間科学研究科（宗教学分野）入学。人間科学、宗教学をベースにした医療の可能性を探る。

<主要業績> 『ペインクリニックと東洋医学』真興交易株式会社医書出版部2004年（共著）；『ベッドサイドのリンパ浮腫ケア』日本看護協会出版会2008年（共著）；「エッセイ 緩和医療医として患者から学ぶ死生観」『死生学年報2010 死生観を学ぶ』リトン2010年など。

発題 (2) 杉木恒彦 (早稲田大学客員研究員) 「インド密教の聖人たちの生と死とその後」

<概要> とかく〈業輪廻と解脱〉が強調されがちなインド宗教の死生観ですが、どの層の人々の視点に立つかによって、実際には多様な死生観を見出すことができます。本発表では、12世紀頃に編纂されたインド密教の聖人伝『八十四成就者伝』を主材料として、インドの仙人である持明仙 (ヴィディヤーダラ) たちの死生観と大乘仏教の菩薩のオーソドックスな死生観が、密教の聖人である成就者 (シッダ) たちの死生観の中で統合されていく様を描きます。その中で、インド密教がもつ死生の様々なイメージにも触れます。

<プロフィール> 東京大学大学院博士課程単位取得退学。文学博士。日本学術振興会特別研究員、東京大学 COE 特任研究員、早稲田大学助教、早稲田大学准教授 (任期付) を経て現職。専門は密教を中心とする古代・中世と現代の南アジア宗教思想・文化研究と比較宗教学。

<主要業績> 『サンヴァラ系密教の諸相—行者・聖地・身体・時間・死生』東信堂 2007 年; 『世界の宗教を学ぶ—その発生から近代まで』角川学芸出版 2007 年; The Consumption of Food as a Practice of Fire-oblation in Esoteric Buddhism in Medieval South Asia, *International Journal of South Asian Studies*, Vol. 3, 2010 (近刊) など。

発題 (3) 鶴岡賀雄 (東京大学大学院人文社会系研究科教授) 「〈死後の生〉と〈宗教の領分〉」

<概要> 現代の医療倫理、とくに終末期医療や臨死状況についての議論を宗教学者の目でみると、「患者」の肉体的死を以て一切の問題が終結し、思考が打ち切られるような印象をもちます。遺された人々については、いわゆるグリーフケアの問題として広義の心理学の領域で処理され、亡くなった当人は検討の対象から消えます。そこには死者を文字通り「無き者」としてしか扱えない近代的学問知への不充足感が漂っているように思います。「まだ生きている人」と「既に死んだ人」をも組み込む死生学が私の問題関心です。

<プロフィール> 東京大学大学院人文科学研究科修了。宗教学専攻。博士 (文学)。工学院大学教授、東京大学大学院人文社会系研究科助教授を経て、2002 年より現職。主たる研究対象は西洋宗教思想。とくに近世スペインやフランスの神秘思想、近現代の神秘主義理論。伝統的な意味での宗教が拡散した現代、かつて「宗教」の名の下に考えられていたことがら、どのようなかたちで現実性を持つかを考えたい。

<主要業績> 『十字架のヨハネ』創文社 2000 年。共編著『岩波講座 宗教』、岩波書店 2003-2004 年。「『神秘主義』は『西欧キリスト教』的か?」『東西宗教研究』9号、2010 年 8 月 (近刊)。

第2部 質疑応答